

第三十九回句会 俳句

【高点句】

☆亡き友の若き日想う冬木立

〈茂〉

☆初雪の湯畑に降り闇に降り

〈明美〉

☆天辺の古巢頭（ふるすだて）に冬木立

〈眞澄〉

【各自一句】

・冬帽子（ふゆぼうし）負（お）われる稚児（わらわ）も負（お）ふ母も

〈一馬〉

・数え日（かぞへひ）やTODORIST（とどりすと）書きき（か）きれず

〈撫子〉

・数へ日の小（こ）さき指折（さしお）り数へ歌

〈莫院〉

・数え日（かぞへひ）や待（まち）つ身（み）となりし子の帰省（ききょう）

〈茂〉

・落葉（らくえつ）踏（ふ）むざくざくと音進（ねいしん）ませて

〈明美〉

・数え日（かぞへひ）や里（さと）に電話（でんわ）を掛（か）けてみる

〈安津子〉

・断捨離（だんせり）で踏（ふ）ん切り（きり）つかず師走（しそ）かな

〈童心〉

・数へ日（かぞへひ）や賞罰（しょうばつ）もなく歳重（としむか）ね

〈眞澄〉

\*以上、24句（3句ずつ8名）より、選句は11名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に

偶然記載された順に掲載）